

葛飾区史編さんだより

261007

Vol.2

総務部 総務課 区史編さん担当係 03-5654-8444
郷土と天文の博物館 03-3838-1101

葛飾区



平成 26 年 7 月 21 日 月曜日 午前 10 時から、西水元地区センターにて「昭和の葛飾を伺う会」が開催されました。多くの方にご参加いただき、西水元にまつわる様々なお話を伺うことができました。



地域の概況

現在の西水元、南水元は江戸時代には猿ヶ又村、飯塚村と呼ばれる村でした。江戸時代の地誌である『新編武蔵風土記稿』(1830)によると、猿ヶ又村は 113 軒、飯塚村は 46 軒の家がある村でした(昭和 7 年にはそれぞれ水元猿町、水元飯塚町となる)。

この状況は、昭和になるまで大きく変わることはありませんでした。猿町も飯塚も昭和 20 年代までは純然たる農村地帯で、稲作のほか、畑で亀戸大根や山東菜、ねぎなどを作り、足立区の千住市場や中央区の築地市場、神田市場などに出荷して現金収入を得ていました。

猿町の鎮守は香取神社で、そのほか猿町の小字にあたる塚谷、東、仲、西でもそれぞれ神社を祀っていました。現在はこれらが水元神社に統合されています。

香取神社の祭りは、毎年 10 月 20 日に行われ、大きな獅子を神輿のように担いで村の中を回ることによって知られていました。

飯塚の渡し

飯塚の渡しは、昭和 30 年 8 月まで中川の現南水元一大谷田間で運航されていました。

渡し場の名前は、「飯塚の渡し」という名称が一般的になっていて、昭和 30 年 9 月に渡し船を廃して橋を架けるときに「飯塚橋」という名称になりました。足立区側からは「大谷田・飯塚橋」という名前にしてほしいという要望も強かったようですが、最終的にはもともとあった渡し船の通称に落ち着きました。

昭和 20 年代まで中川の水はきれいで、夏になると子どもたちはここで競って泳ぎ、体を鍛えました。「小学校に入ると上級生から泳いで大谷田へ行けるように鍛えられた」と当時のことを知る人は言います。

飯塚には渡し船とは別に、いくつかの船着き場があって河岸と呼ばれていました。また、一面葦(よし)におおわれていた川の岸辺を切り込んで船が陸着けができる場所を作っていました。

船で物や人を運ぶ時代が終わり自動車の時代になって川からは船や人の姿が少なくなりました。



中川の葦原(よしはら)



中川の西水元、南水元(猿町・飯塚町)側には広大な葦原がありました。この葦原は、かつて猿町・飯塚町の人たちにとって生活のために非常に重要な役割を持っていました。

かつての農家はみな茅葺(かやぶき)で、この葦原に自生している茅を使って葺き替えや補修をしていました。茅屋根葺きは周辺の家々も手伝いに出てお祭りのように行われたそうですが、昭和 20 年代以降は屋根の材料も変わり、めったに見ることが出来なくなりました。

また、農家が畑に作っていたコカブや亀戸大根を育てるために、冬の間霜よけ

にする葦簀(よしず)の材料としても使われました。葦簀は現在も夏の日よけなどとして販売されていますが、かつては農家が冬の間手作りで大量に作っていました。猿町では年に一度集落の共同作業として葦刈りが行われ、自家用として確保するほか、葦の原野が少ない周辺の農村に販売することもありました。

さらに飯塚町では、葦を使って「ふでさや作り」を営む人がいました。ふでさやとは、和筆の先端部を保護する部品です。刀のさやのように筆先を葦で覆ったので、ふでさやといいました。このふでさや作りをしていたのは昭和 20 年代までですが、現在も「ふで*」という屋号が伝えられています。



猿町・飯塚町の古い家は中川の自然堤防上に出来た微高地に建てられています。家の周りには畑が多く、現在の清掃工場の周囲には水田が広がっていました。

水田のなかには池が点在して魚も多く、なまずや鮒などが取れました。こうした淡水魚は人々の蛋白源となりました。

若者の仲間

各集落には村の祭りなどにお囃子を奉納する連中がありました。

これらのお囃子は葛西囃子ですが、飯塚ではこの仲間に入ることが出来るのは代々飯塚村に住む家の長男に限られていました。

中川を挟んで飯塚の対岸にある集落である佐野新田では若者たちが夏の夜にナマズ釣りを中川でしていると、飯塚のほうから祭囃子が聞こえてきて、これを習おうということになり、若者たちが教を乞いに行ったという言い伝えがあります。祭囃子の先進地であった飯塚の囃子連中ですが、いまは活動をお休みしています。

また、かつては猿町、飯塚に青年団があつて村祭りの準備や余興の手配、年末等の夜警などの仕事をしていました。昔の村の運営には青年団は欠くことのできない存在でした。

青年団には村の若者であればだれでも加入することが出来ました。太平洋戦争前には軍事演習などの国策にも協力しました。

青年団は自治的な性格の強い団体で、団の経費も自給していました。飯塚では、しめ飾りを作る家が数軒あったので、年末に、そこからしめ飾りを購入し、浅草に持って行って販売をしたそうです。